

2024年6月21日（木） 15:30～17:00  
大阪公立大学YOSS研修会

# 地域社会とともに子どもたちを支援 していくには：社会疫学の観点から

京都大学大学院医学研究科 社会疫学分野

特定助教 上野 恵子



京都大学  
KYOTO UNIVERSITY

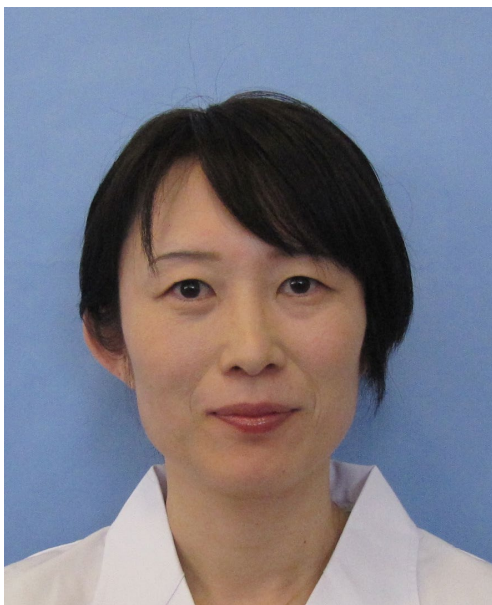


# 本日の内容

- 自己紹介
- 社会疫学、健康の社会的決定要因
- 生活困窮世帯の子どもたちの実態と健康
- 研究事例：生活保護世帯の子どもたちの健康・生活支援
- 地域社会で子どもたちを支えていくためには
- さいごに

# 本日の内容

- 自己紹介
- 社会疫学、健康の社会的決定要因
- 生活困窮世帯の子どもたちの実態と健康
- 研究事例：生活保護世帯の子どもたちの健康・生活支援
- 地域社会で子どもたちを支えていくためには
- さいごに



## 上野 恵子

京都大学大学院 医学研究科  
社会疫学分野 特定助教

医師、救急専門医、医学博士

### [学歴]

- 2003年 金沢大学医学部医学科卒業
- 2018年 東京大学大学院医学系研究科公共健康医学専攻修了
- 2022年 東京大学大学院医学系研究科社会医学専攻健康教育・社会学分野博士課程修了

### [職歴]

- 2003年 アメリカ合衆国海軍横須賀病院
- 2004年 ミシガン州セントジョセフ・マーシー病院
- 2009年 イリノイ州ラッシュ大学病院
- 2010年 東京医科大学救急医学講座
- 2013年 東京医科大学八王子医療センター救命救急センター
- 2017年 深谷赤十字病院救命救急センター
- 2022年 京都大学大学院医学研究科社会疫学分野
- 現在に至る

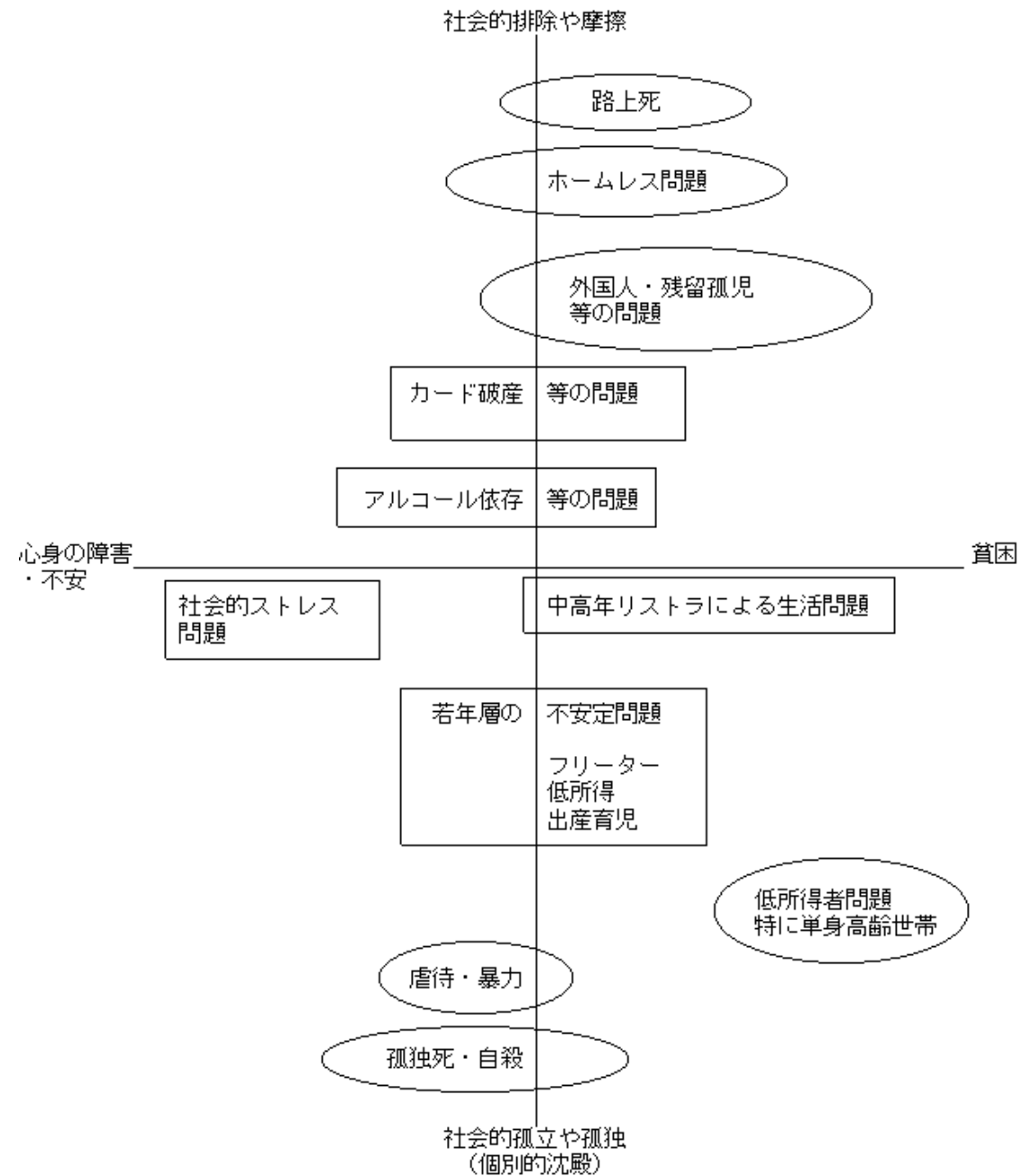
# 本日の内容

- 自己紹介
- 社会疫学、健康の社会的決定要因
- 生活困窮世帯の子どもたちの実態と健康
- 研究事例：生活保護世帯の子どもたちの健康・生活支援
- 地域社会で子どもたちを支えていくためには
- さいごに

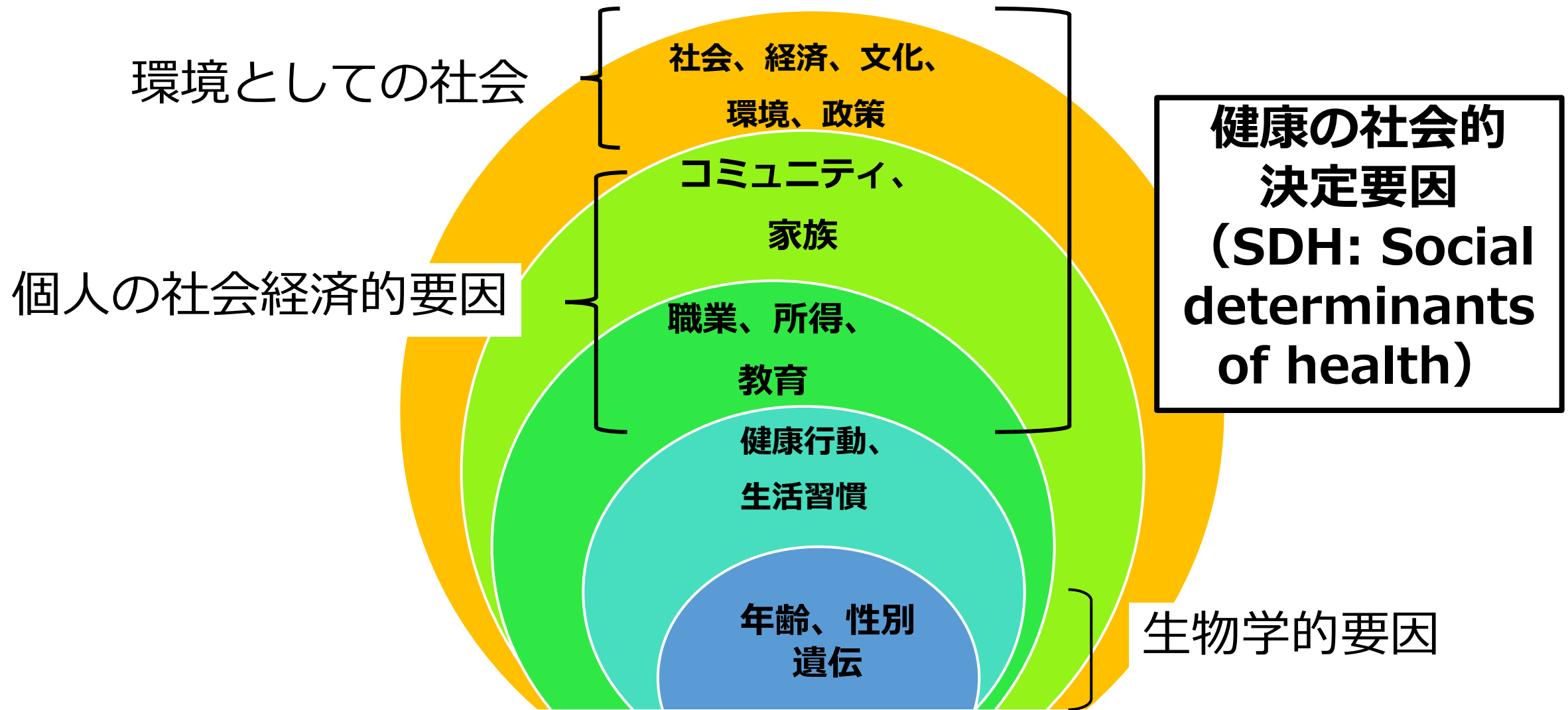
# このような子どもたちの姿に心当たりがありますか？

カテゴリー	サブカテゴリー
必要なものが揃わない	いつも同じもしくはサイズの合わない洋服や靴、靴下や下着を着ていない、日用品や、学用品、入学用品がない、提出物が出ない、給食費や集金の未払い、中学進学の準備が出来ない
清潔が保たれない	衣服やからだの汚れ、たばこの臭いや体臭、家の汚さ
十分な食事が無い	朝食欠食や日常的な空腹感、給食の食べ方、バランスの悪い食事
学校生活への支障	文化的な生活が少ない、生活リズムが乱れる、学力が低い、家事手伝いの負担がある、弟・妹の面倒をみるため学校を休む、行事に出なくなる、不登校になる

(表2 養護教諭が貧困状況にある子どもに気付くきっかけや子どもの姿 《生活の状況》  
竹鼻 2019より著者抜粋)

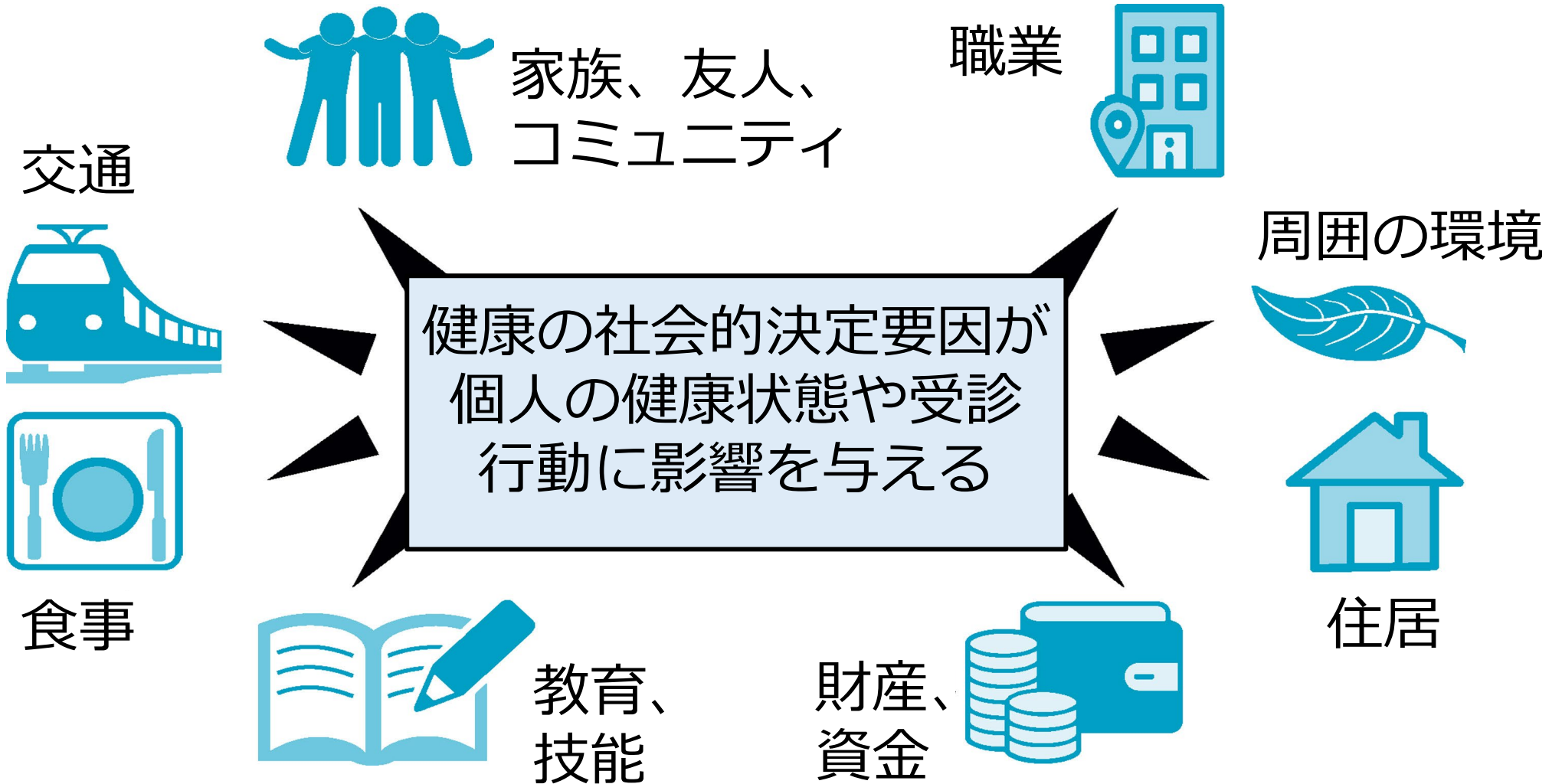


(厚生労働省 2000)



(Dahlgren and Whitehead 1991より著者改変)





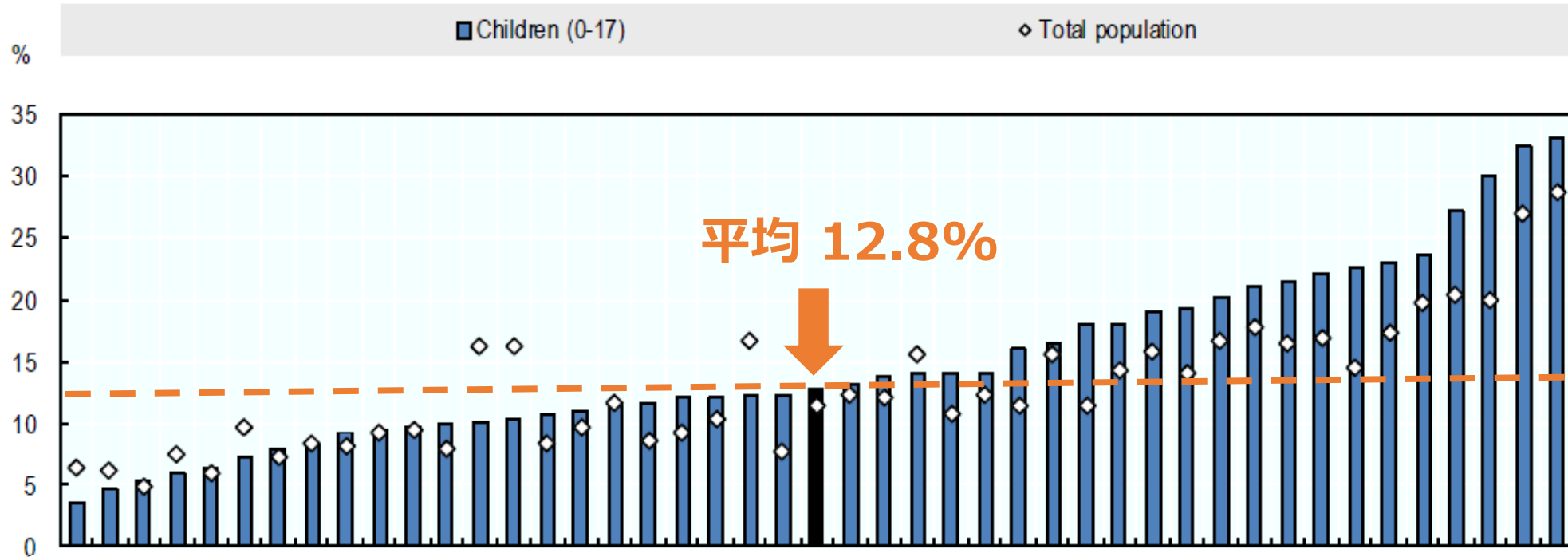
- ① 生活環境の改善
- ② 不公正な資源配分の是正に向けた多様な組織との連携  
(ガバナンス構築)
- ③ SDHの実態把握と対応のための活動の効果のアセスメント

(WHO 2008)

# 本日の内容

- 自己紹介
- 社会疫学、健康の社会的決定要因
- 生活困窮世帯の子どもたちの実態と健康
- 研究事例：生活保護世帯の子どもたちの健康・生活支援
- 地域社会で子どもたちを支えていくためには
- さいごに

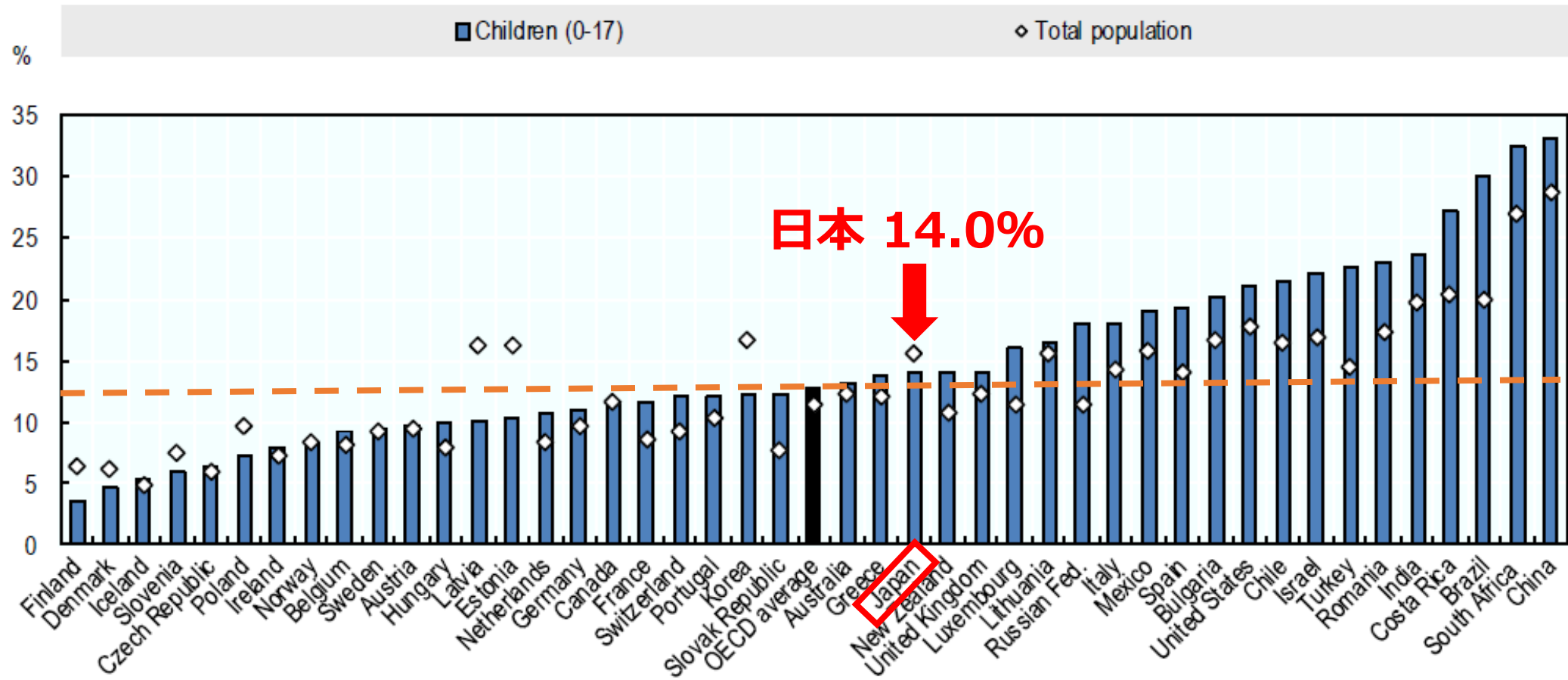
## OECD(経済協力開発機構)加盟国の子どもの相対的貧困率 (2018年)



(OECD 2021)

# 子どもの貧困率

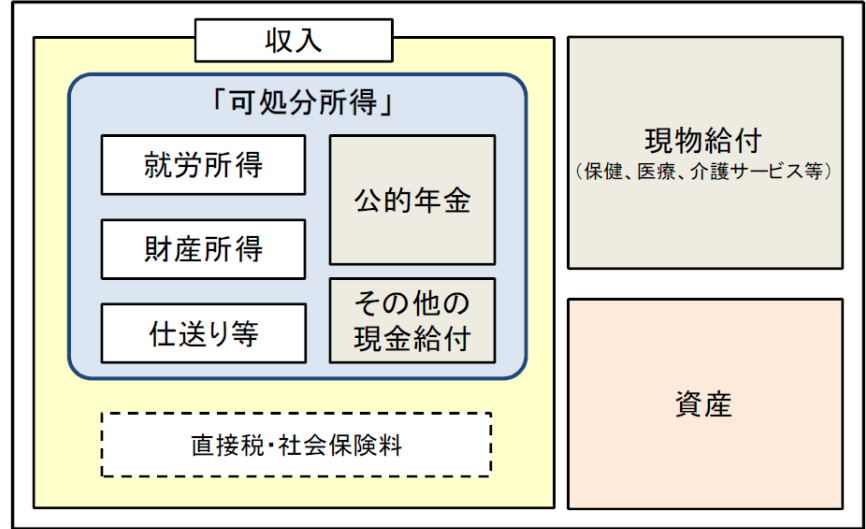
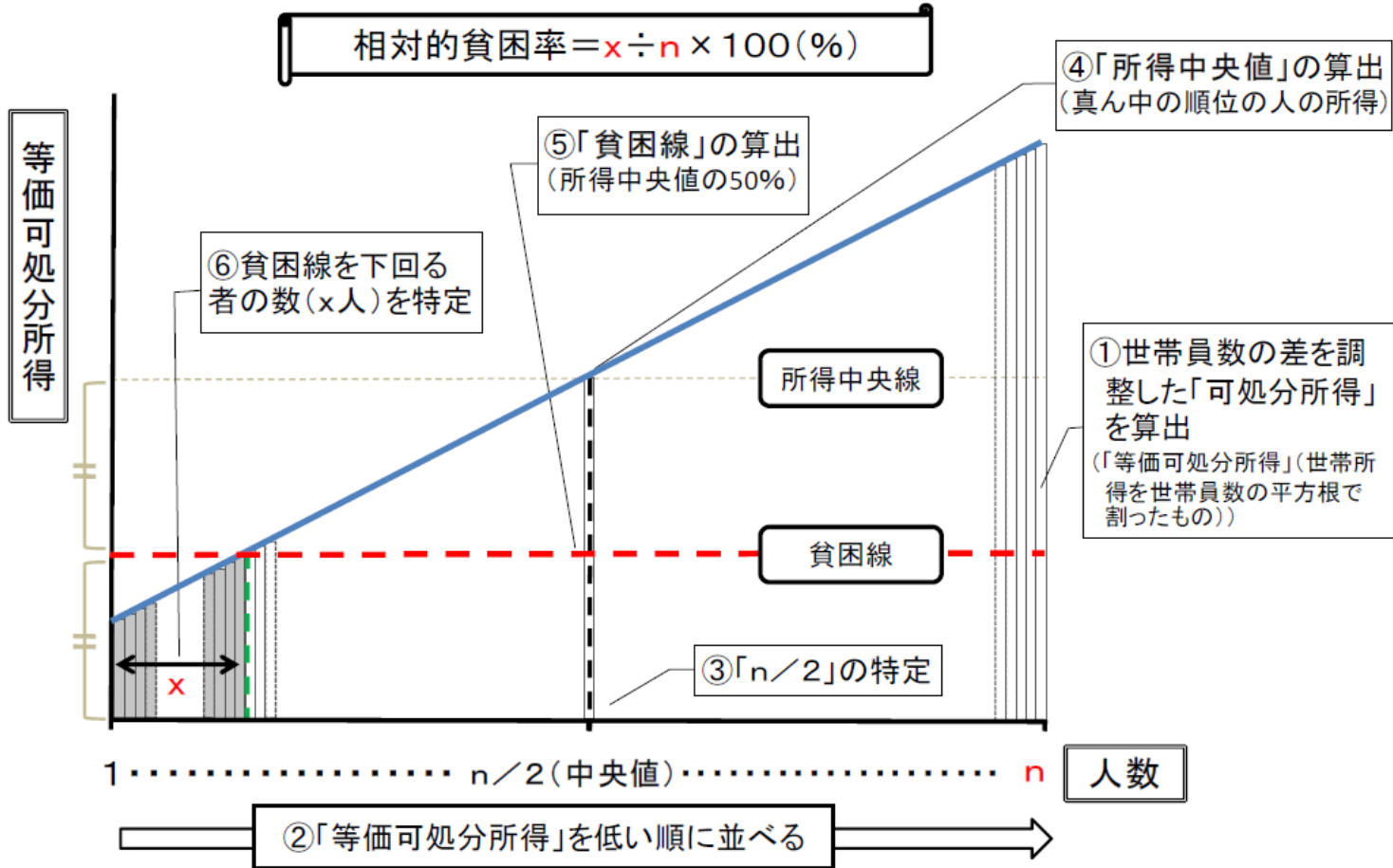
## OECD(経済協力開発機構)加盟国の子どもの相対的貧困率 (2018年)

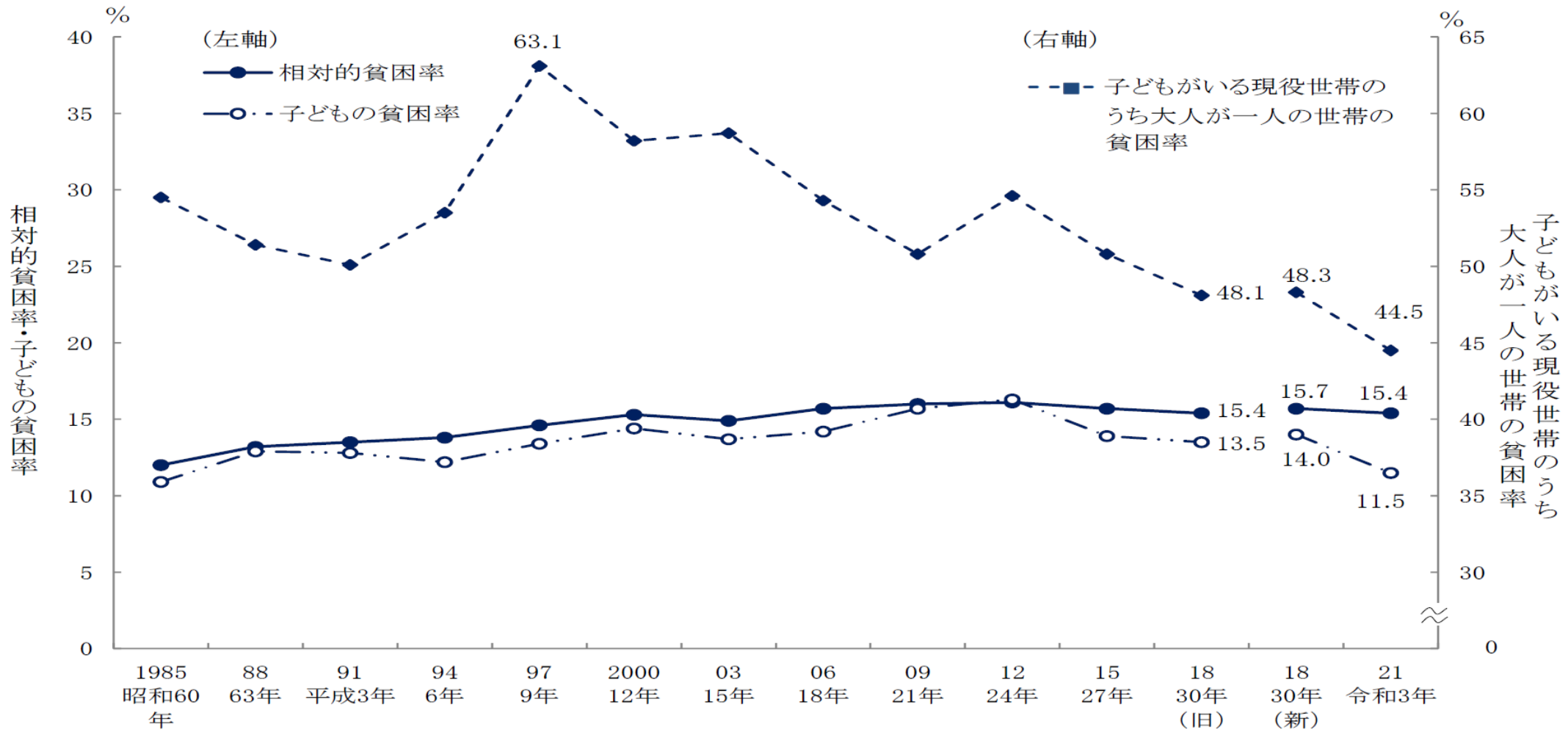


(OECD 2021)

# 相対的貧困率

相対的貧困率 = 等価可処分所得中央値の一定割合（50%：「貧困線」）を下回る所得しか得ていない者の割合





(2022年 国民生活基礎調査)

# 日本のひとり親世帯の貧困率

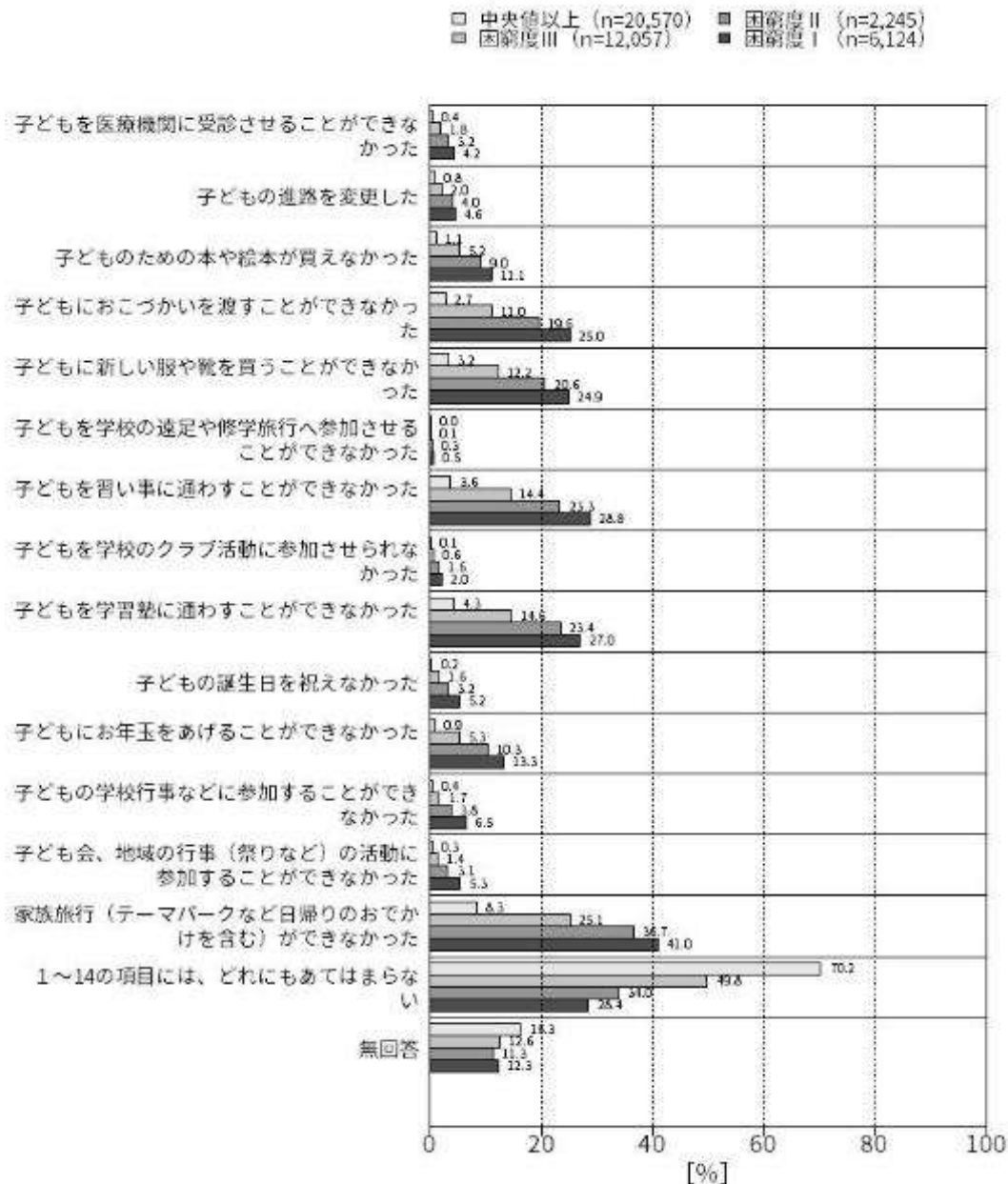
日本のひとり親世帯の貧困率は、OECD加盟国中35位

順位	国名	貧困率
1	デンマーク	9.7
2	フィンランド	16.3
3	アイスランド	18.9
4	英国	22.3
5	ノルウェー	23.4
6	ハンガリー	23.5
7	ラトビア	23.7
8	ポーランド	23.8
9	フランス	24.1
10	スロベニア	24.5
11	スウェーデン	25.1
12	ギリシャ	26.8
13	ドイツ	27.2
14	ポルトガル	27.5
14	アイルランド	27.5
16	チェコ	28.4
17	エストニア	29.1
18	オランダ	29.5
18	ベルギー	29.5

順位	国名	貧困率
20	オーストリア	31.0
21	トルコ	31.2
22	イタリア	33.4
23	スロバキア	33.6
24	イスラエル	33.9
25	メキシコ	34.2
26	ルクセンブルク	40.2
27	スペイン	40.3
28	オーストラリア	41.0
29	リトアニア	41.3
30	チリ	42.6
31	カナダ	43.0
32	米国	45.7
33	ニュージーランド	46.1
34	韓国	47.7
35	日本	48.3
36	コスタリカ	49.6
OECD平均		31.8



# 所得格差は子どもの社会生活も制約する



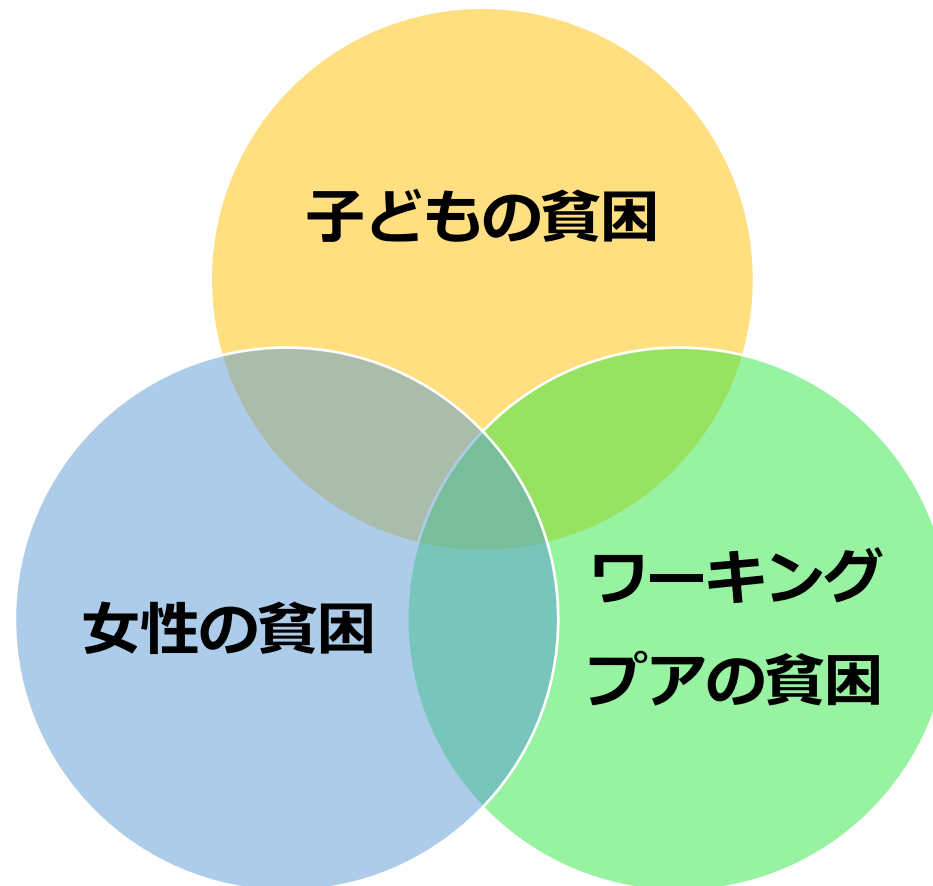
困窮度が深刻化するにつれて、  
子どもは社会生活面での困難を  
経験する

(平成28年度子どもの生活に関する実態  
調査、大阪府)

# なぜ「子ども」の貧困なのか？

「当事者である子どもに貧困の責任を問うことはできない。

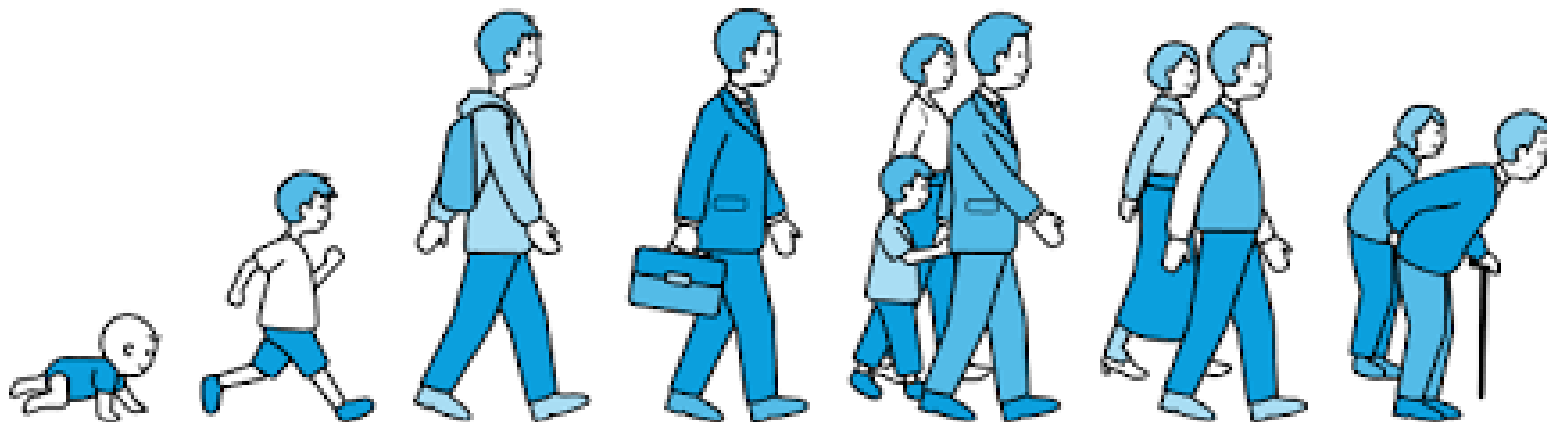
貧困の自己責任論が、子どもに対しては全く通じない。」 (武川 2017)



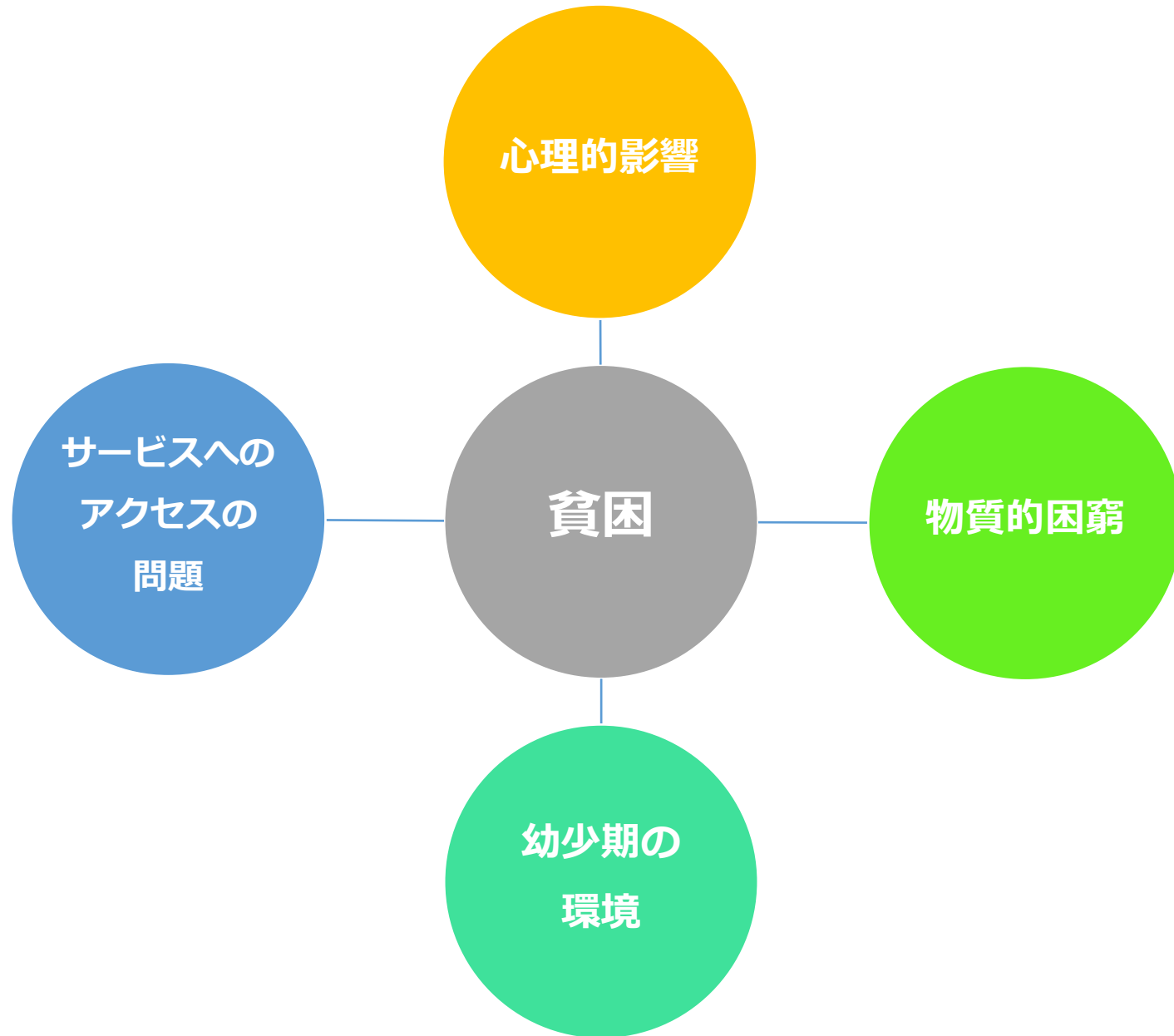
子どもの時期の健康状態は、人生（ライフコース）に長期的に影響を及ぼす

＜ライフコース疫学＞

胎児期、幼少期、思春期、青年期、成人期における物理的・社会的曝露による成人疾病リスクへの長期的影響に関する学問 (Kuh and Ben-Shlomo 1997)



# 貧困と健康をつなぐメカニズム

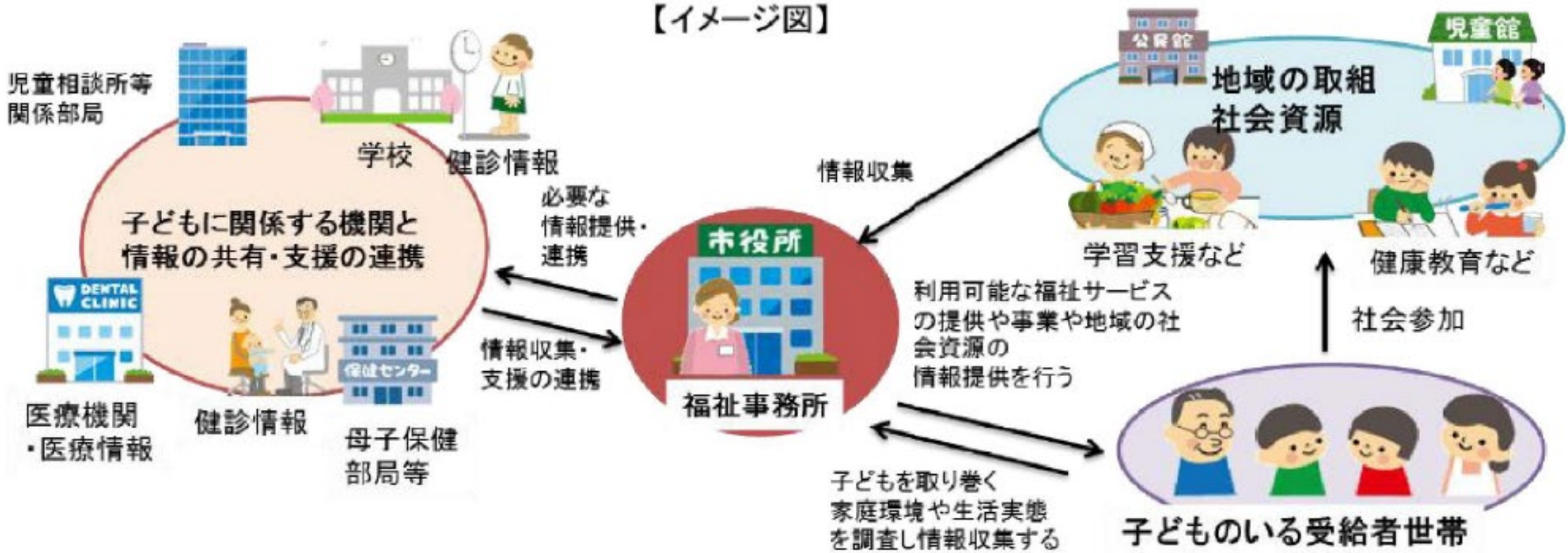


- 生活保護制度：生活に困窮するすべての国民に対し、最低限度の生活を保障  
(生活保護法 1950)
- 全人口の1.63%の世帯が生活保護を利用 (厚生労働省 2023)
- 19歳以下の生活保護利用者は194,469人 (9.6%) (厚生労働省 2023)
- 生活保護世帯の子どもは、一般世帯の子どもよりも生活習慣や健康への支援が必要である可能性が高い
  - 不登校の割合が高い傾向 (Koyoma 2021)
  - 適切な生活習慣・食習慣・運動習慣が確立されていない可能性が高く、虫歯、肥満の割合が高い (厚生労働省 2015)

# 生活保護世帯の子どもと養育者への健康支援

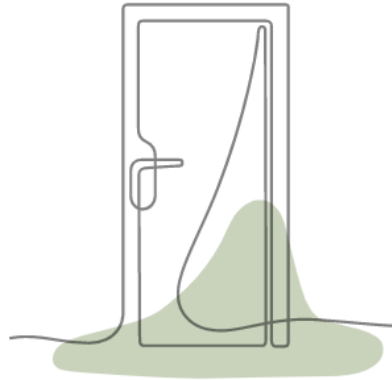
- 平成30年より「子どもとその養育者への健康生活支援モデル事業」が実施

【イメージ図】



# 本日の内容

- 自己紹介
- 社会疫学、健康の社会的決定要因
- 生活困窮世帯の子どもたちの実態と健康
- 研究事例：生活保護世帯の子どもたちの健康・生活支援
- 地域社会で子どもたちを支えていくためには
- さいごに



プロジェクト

2021年度採択

## 地域とつくる「どこでもドア」型 ハイブリッド・ケアネットワーク



研究代表者：近藤 尚己

京都大学 大学院医学研究科 教授

Keywords: 子ども、若年女性、支援者ネットワーク、機械学習、  
ICT活用

研究開発期間：2021年11月～2026年3月

▶ researchmap

- 社会的孤立・孤独の状態にあり、社会から排除されている子ども・若者たちがいる
- どの「出会い」からでも、寄り添いにつながり助け合いの輪に包摂される「どこでもドア」モデルの構築を目指す

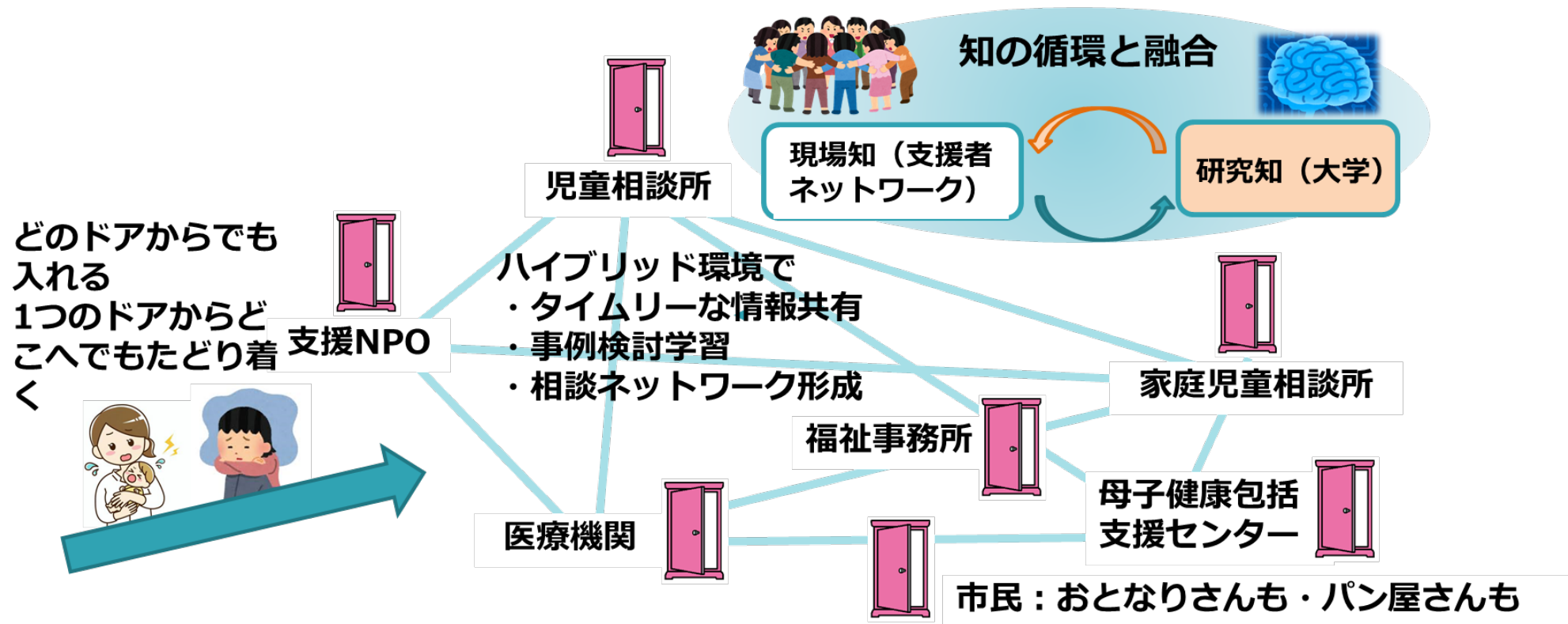
<https://www.jst.go.jp/ristex/koritsu/projects/02.html>



## 「どこでもドア」モデル

顔の見える当事者と支援者のネットワークを介して、誰が困り事を発見しても、すぐさまチーム支援を発動し効果の高い支援を提供

コミュニティ内でデータ蓄積・成長



生活保護利用者管理基本データ・医療扶助レセプトデータ  
生活環境、社会的状況の調査票



ペルソナ像(セグメント)  
ごとに支援プランを提示

Gさんのセグメント所属確率

Aタイプ 80%  
Bタイプ 50%  
Cタイプ 20%  
...

優先度決定  
支援プラン  
提案  
アルゴリズム

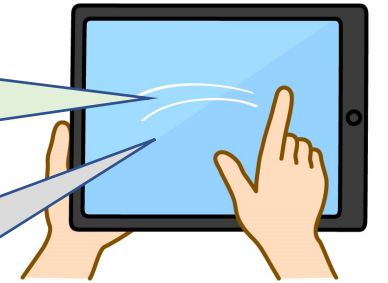
## 支援者・相談者への情報提供

GさんはAタイプ度が高いです。  
Aタイプの方は、虫歯になる確率が〇〇%と高いです。また、  
不登校の確率がXX%と比較的高値です。  
支援優先度：**高**

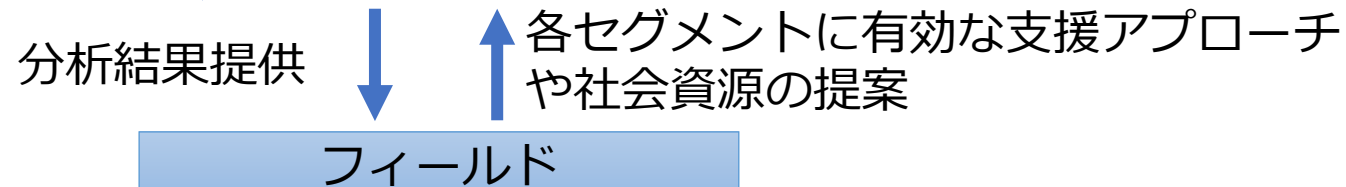
### おすすめ支援プラン



- |            |                |
|------------|----------------|
| 1 保健師へ相談   | 推奨度 <b>85%</b> |
| 2 ケース会議へ提示 | 推奨度 <b>50%</b> |
| 3 本人との面談   | 推奨度 <b>40%</b> |

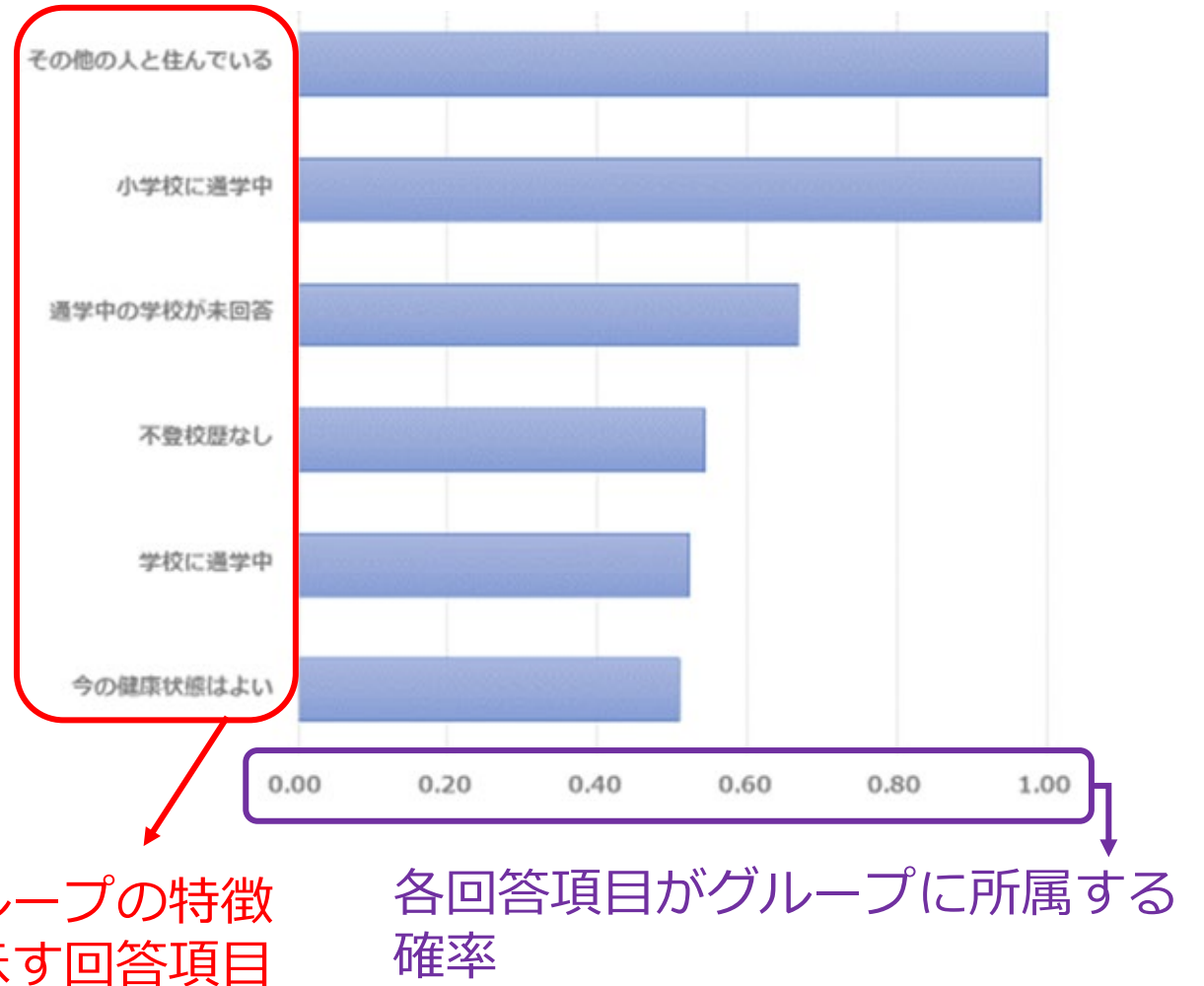


ケースワーカー用情報  
端末(タブレット)



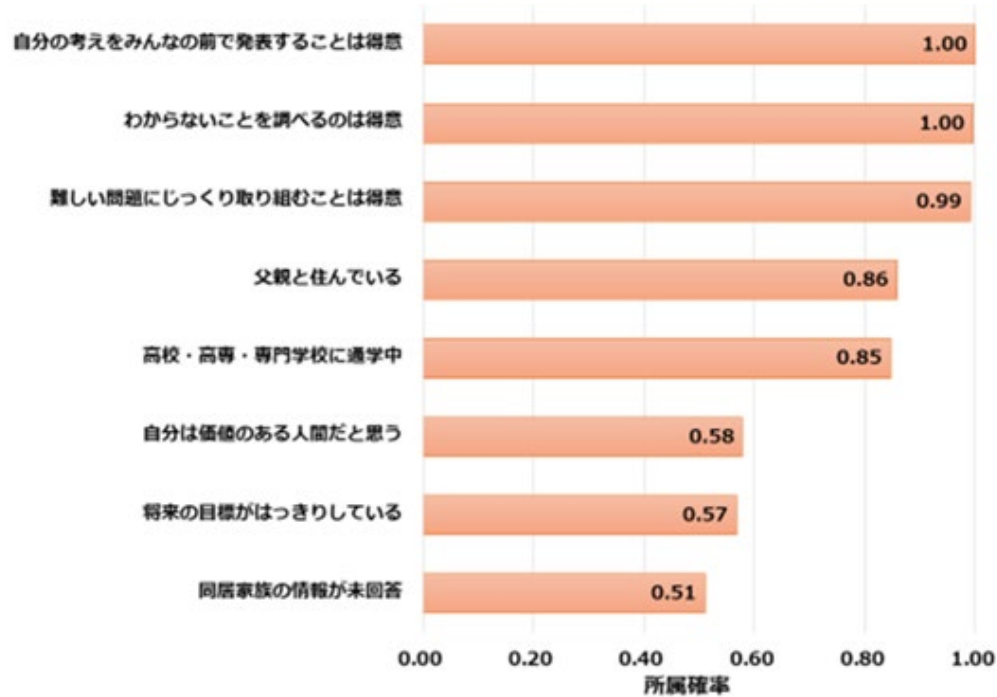
支援対象者のペルソナ像を抽出&個別化支援法提案システムを開発

- 生活保護世帯の子どもの調査票回答データ（2018年）を使用
- クラスタリング（グループ分け）の手法を用いて、子どもたちを類似の特徴をもつグループに分類
- 子ども・若者の支援に携わる専門職の方々に各グループについての特徴、必要としている支援についてインタビュー



# 生活保護世帯の子どもたちへの支援策の検討

## セグメント1



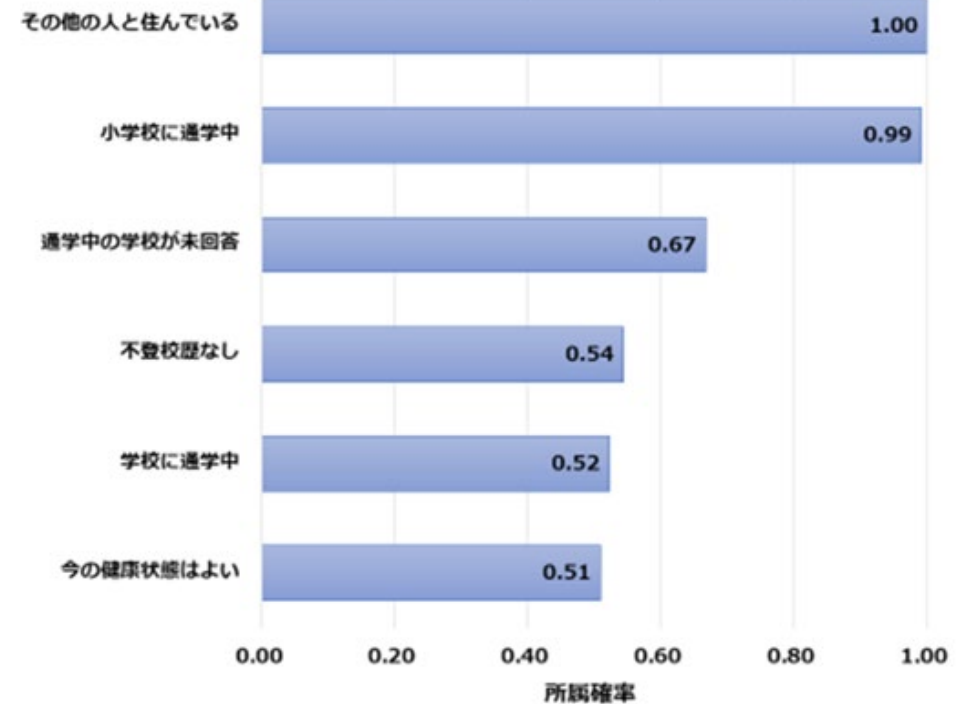
### <人物像>

- ・自分で物事を進められる子ども、しっかりした子ども
- ・人に頼るのが苦手そうな子ども
- ・知的能力が高く自尊心が保たれている子ども

### <支援方法>

- ・気に掛けてあげる支援（例：オープン型交流スペース）
- ・進学への金銭的支援
- ・支援の必要性がないと思う

## セグメント2



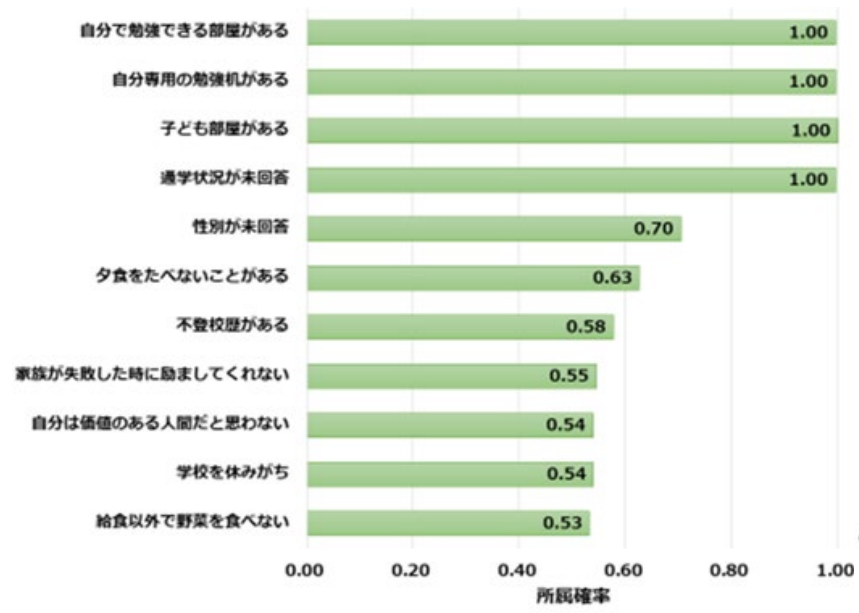
### <人物像>

- ・施設に入所している子ども
- ・親せきと暮らしている子ども

### <支援方法>

- ・対人関係を形成できるような支援
- ・多様で豊かな楽しみがあるということと一緒に経験していく支援
- ・自分で生計を立てていける力を身につけるための支援

## セグメント3



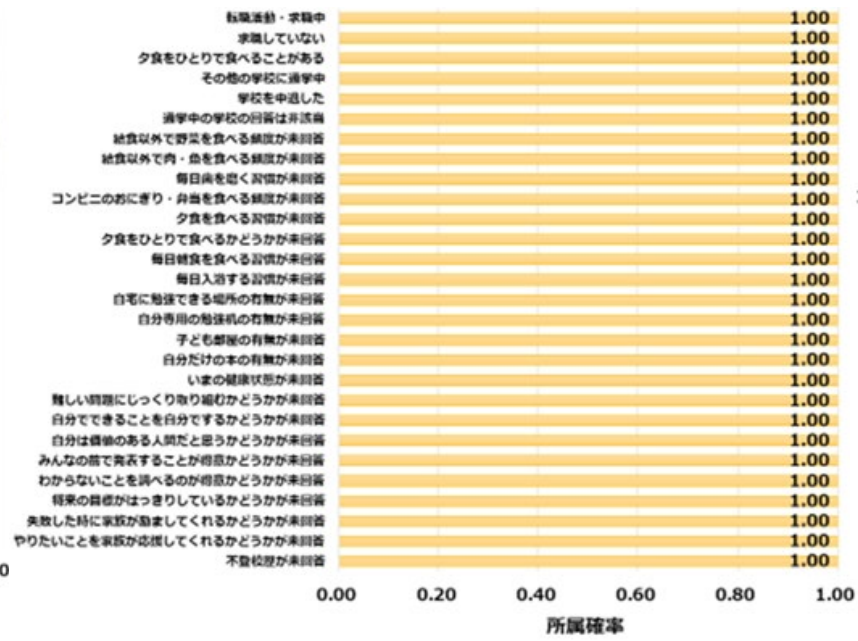
### <人物像>

- ・引きこもりの子ども
- ・不登校の子ども
- ・ネグレクトの子ども

### <支援方法>

- ・家庭訪問
- ・養育者への子育て支援
- ・つながり続ける支援

## セグメント4



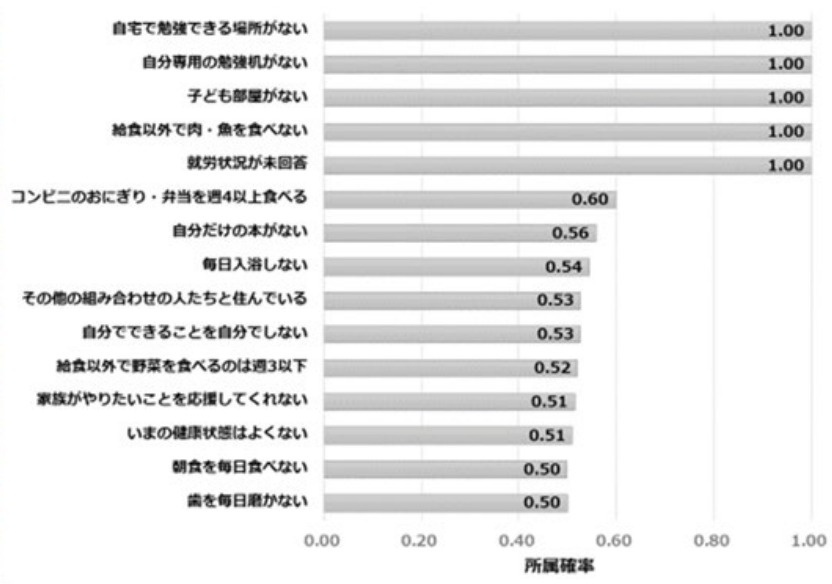
### <人物像>

- ・自分のことについて概念的に聞かれることを面倒と思う子ども
- ・聞かれている項目の意味が理解できない子ども
- ・自分のことを振り返る力がない子ども

### <支援方法>

- ・自身のことを一緒に考えてあげる支援
- ・自立するための支援

## セグメント5



### <人物像>

- ・家庭の文化に影響を受けている子ども
- ・養育環境が良好でない家庭の子ども
- ・生活保護利用の世代間連鎖がある家庭の子ども
- ・きょうだいが多い子ども

### <支援方法>

- ・家庭全体への支援
- ・食事の支援
- ・行事などの体験を一緒にする支援
- ・個別の自習スペースの提供

## テーラーメイド型健康・福祉ケアシステム

各セグメントに支援を提供するために・・・



個別化支援提案  
アルゴリズムの導入



支援者へ  
支援情報提供



健康・生活支援  
提供



データ蓄積・支援結果  
フィードバック



セグメント・支援策  
の精緻化

支援策	生活保護世帯の子どもたち
高等教育進学への 経済的支援	—— セグメント1 —— 自分で何でもできる 子ども
多様で豊かな楽しみを 経験するための支援	—— セグメント2 —— 施設にいる子ども
継続的に交流できる 家族以外の大人の存在	—— セグメント3 —— 引きこもりの子ども
自身のことを一緒に 考えてあげる支援	—— セグメント4 —— 抽象的な質問に答えるの が面倒だと思ふ子ども
家族全体への支援	—— セグメント5 —— 生活保護利用の世代関連 鎖がある世帯の子ども

注：セグメントの特徴とその支援策は一部の結果のみを記している。

# 本日の内容

- 自己紹介
- 社会疫学、健康の社会的決定要因
- 生活困窮世帯の子どもたちの実態と健康
- 研究事例：生活保護世帯の子どもたちの健康・生活支援
- 地域社会で子どもたちを支えていくためには
- さいごに

- ① 生活環境の改善
- ② 不公正な資源配分の是正に向けた**多様な組織との連携**  
(ガバナンス構築)
- ③ SDHの実態把握と対応のための活動の効果のアセスメント

(WHO 2008)



## れん-けい【連携】

同じ目的を持つ者が互いに連絡をとり、  
協力し合って物事を行うこと



(広辞苑オンライン)

共有化された目的をもつ複数の人及び機関（非専門職を含む）が、**単独では解決できない課題**に対して、主体的に協力関係を構築して目的達成に向けて取り組む**相互関係の過程**

（吉池、栄 2009）

# 連携の展開過程



① 単独解決できない課題の確認

② 課題を共有し得る他者の確認

③ 協力の打診



④ 目的の確認と目的の一致

⑤ 役割と責任の確認

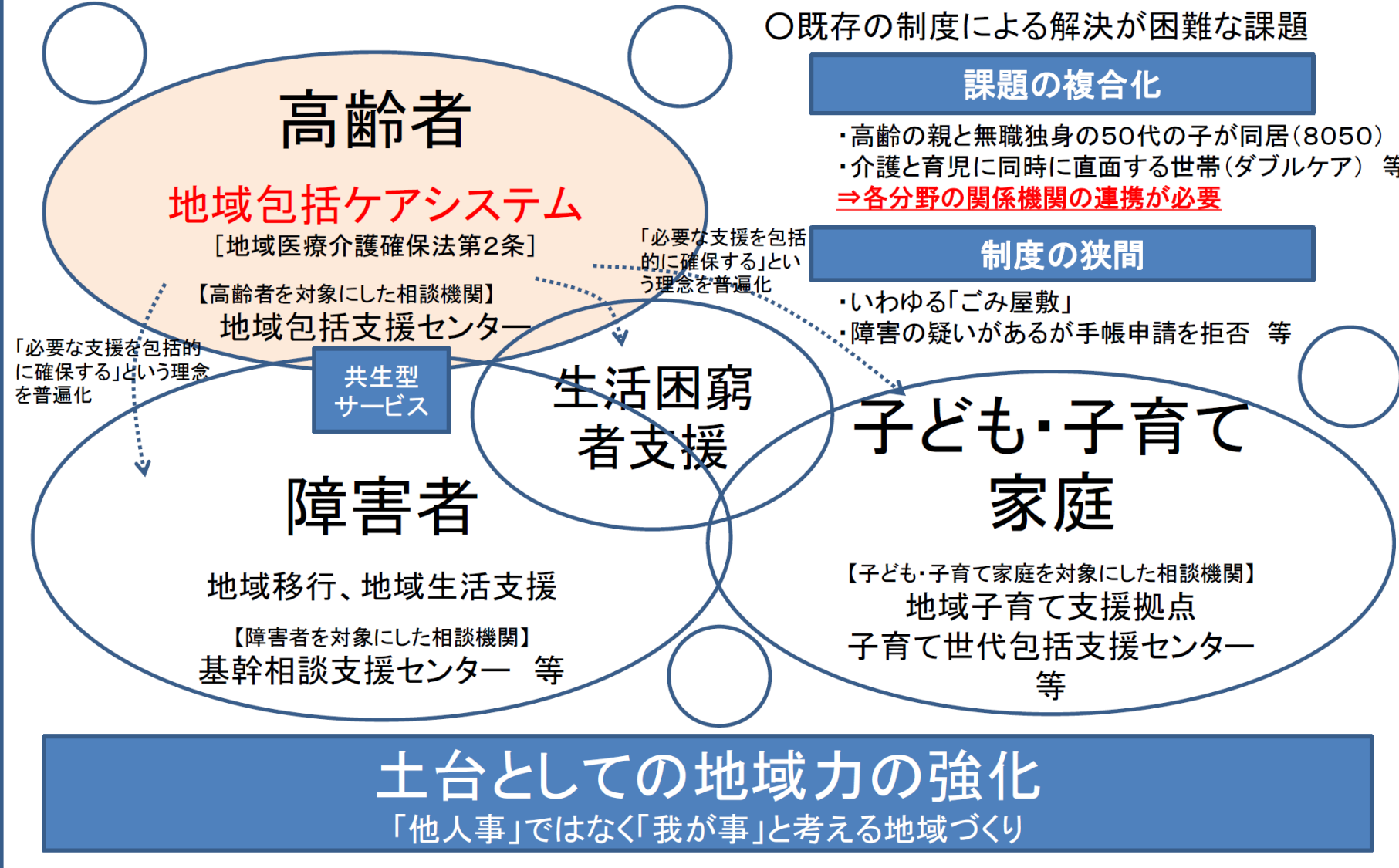
⑥ 情報の共有



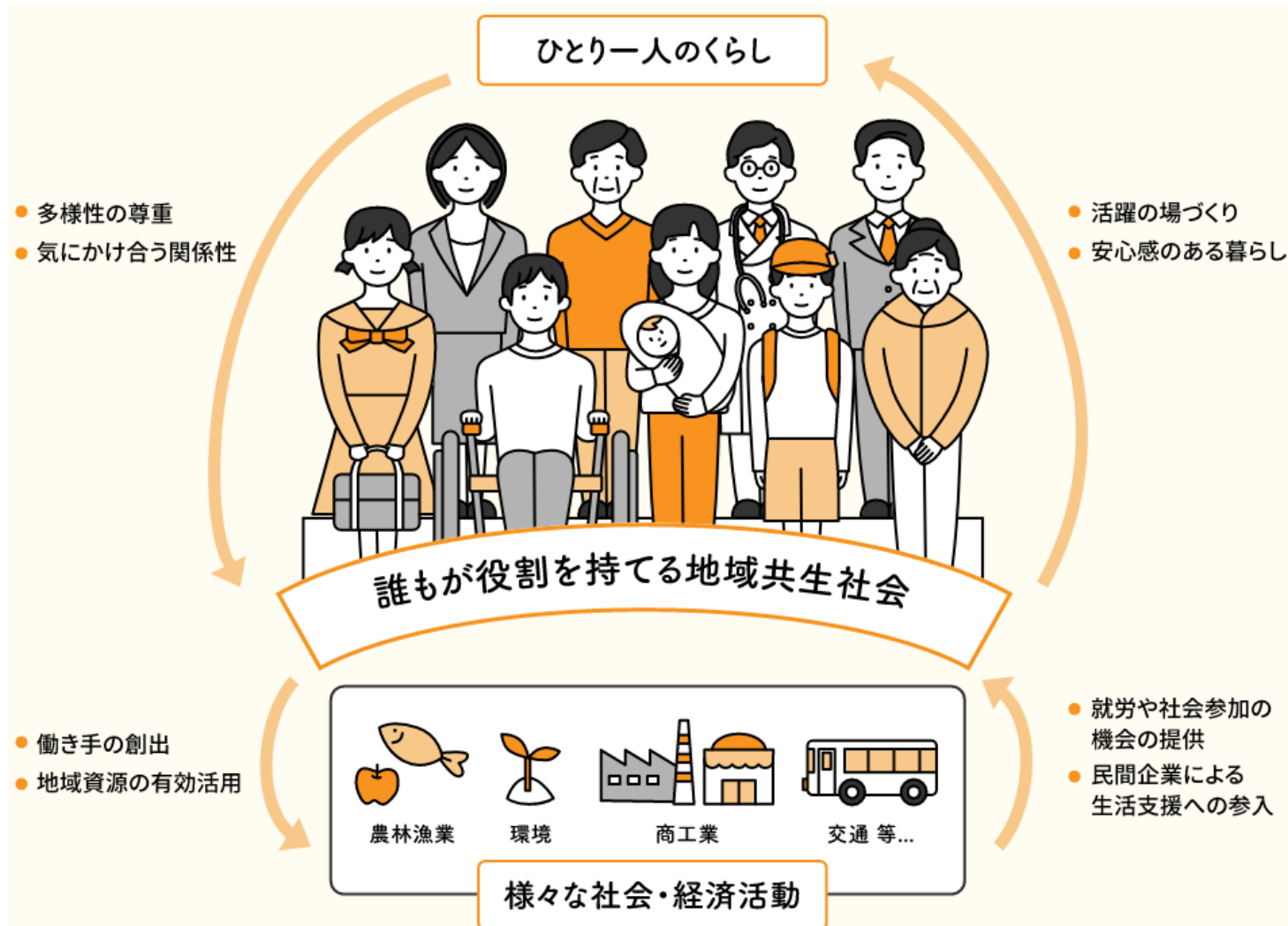
⑦ 連続的な協力関係の展開

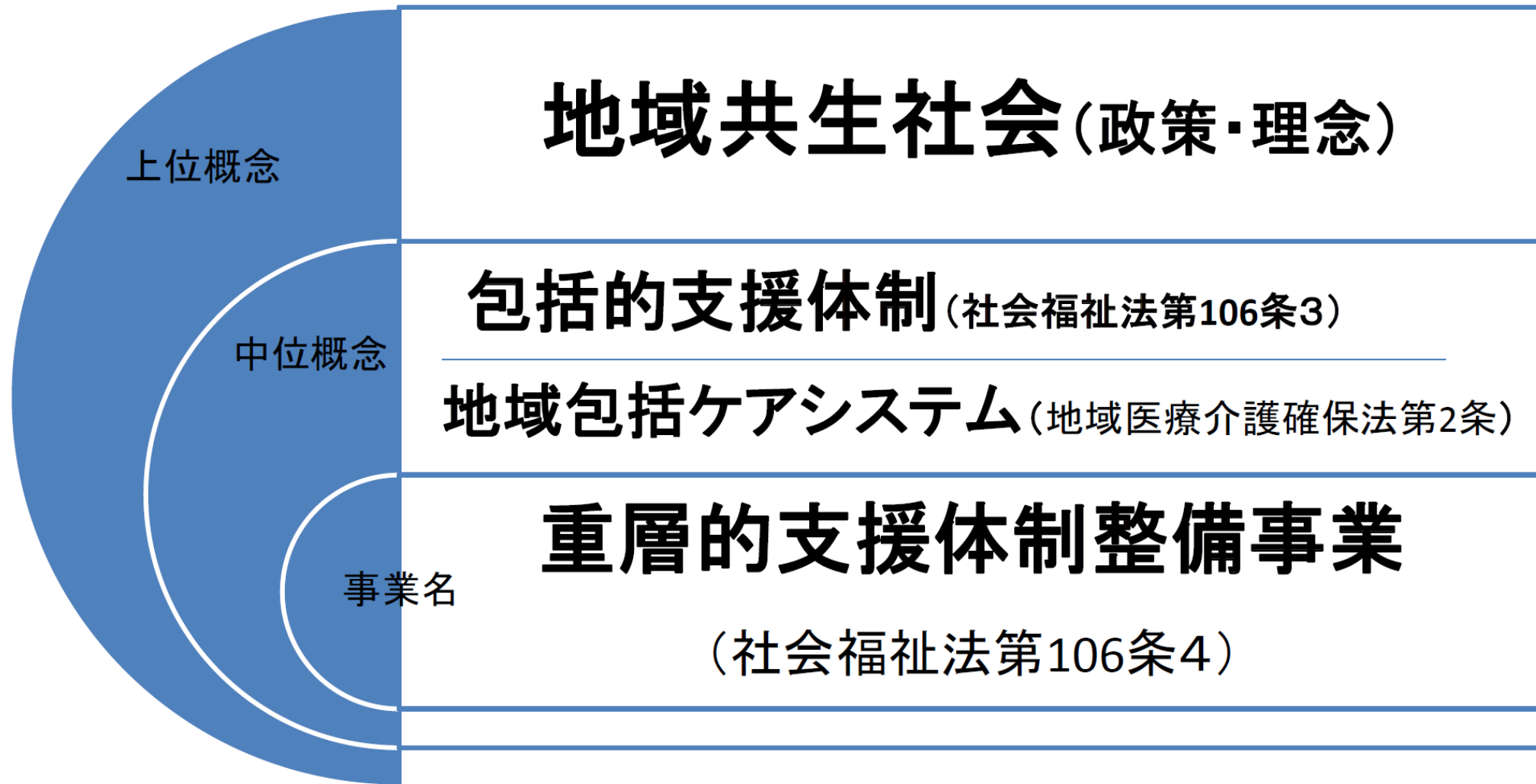


## 地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制



## 地域住民や地域の多様な主体が、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会





## ■ 重層的支援体制事業

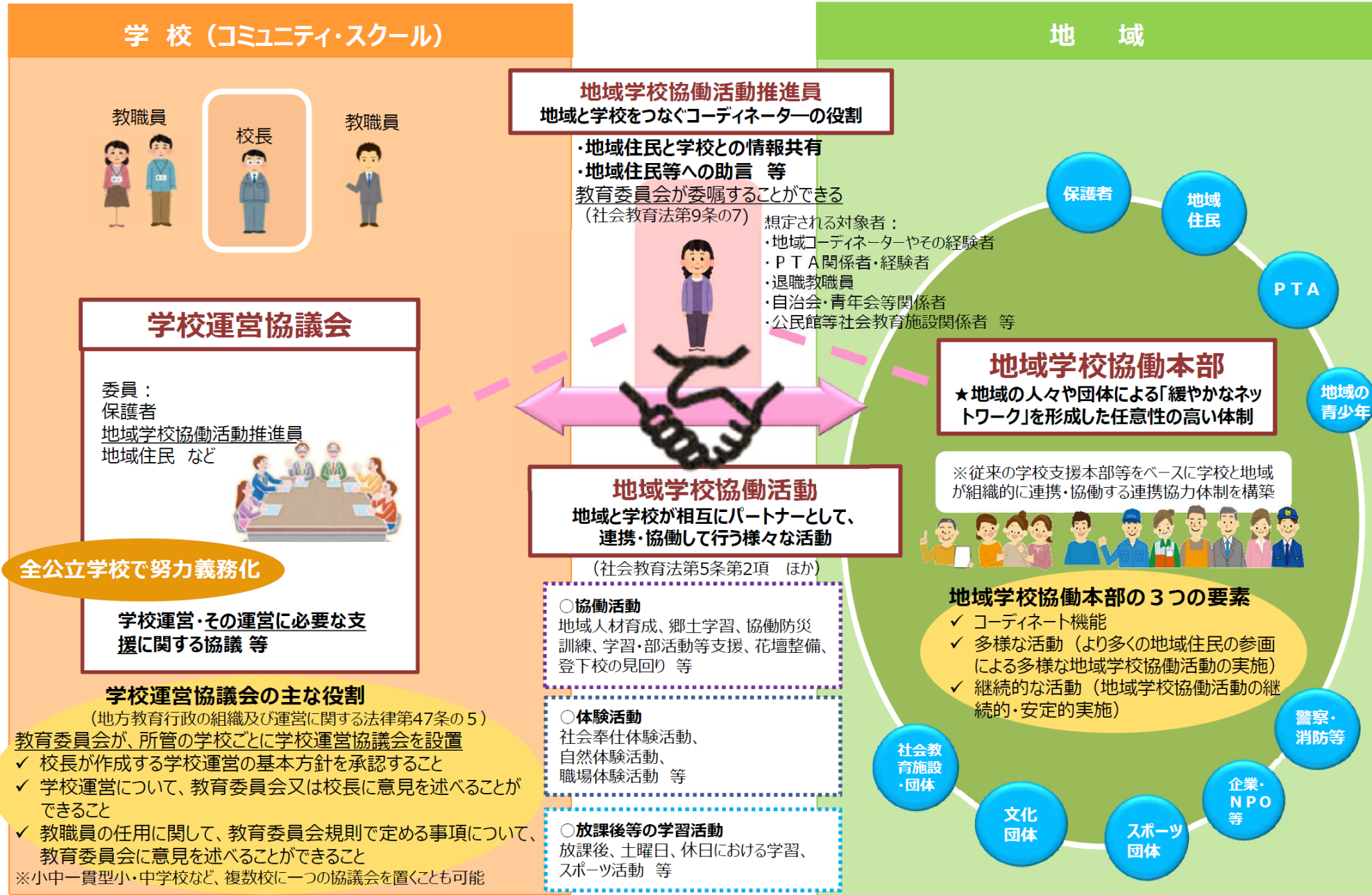
地域住民の複雑化・複合化した支援ニーズに対応するために、既存の相談支援の取り組みを生かしつつ、属性を問わない①相談支援、②参加支援、③地域づくりに向けた支援を一体的に市町村が実施する事業

## ■ 「重層的支援体制整備事業と教育施策との連携について」

(令和3年3月29日文部科学省)

- 複雑化・複合化した課題を抱える児童生徒は、その保護者や家庭自体が様々な課題を抱えている場合も多い
- 教育委員会等から多機関協働事業者等を通じて適切な支援関係機関につなぎ、保護者、家庭に対して福祉的な支援を行うことが重要

# 地域と学校の協働体制





## 阻害要因

1. 異なる職種に属するメンバーは、理解不足のため対立しやすい
2. 「同質的なメンバーの方が仕事の効率が高い」という意識

## 阻害要因を乗り越えるために

## 促進要因

1. これまでのやり方では限界があるという危機意識
2. 継続的な「場」の設定
3. 継続的な学習（連携が進む水準に必要な知識の獲得）
4. 小さくともやりやすいことから始める  
“small start with BIG picture”

- YOSS®での児童生徒の情報の入力
- スクールソーシャルワーカーに報告・相談
- 他職種の講習会・セミナーへの参加

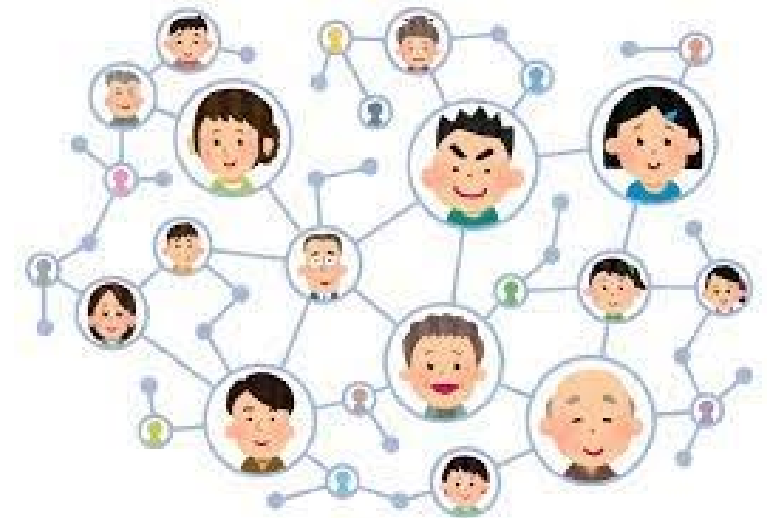


みなさまのご意見をお聞きしたいです！

# 本日の内容

- 自己紹介
- 社会疫学、健康の社会的決定要因
- 生活困窮世帯の子どもたちの実態と健康
- 研究事例：生活保護世帯の子どもたちの健康・生活支援
- 地域社会で子どもたちを支えていくためには
- さいごに

- 子どもの健やかな成長には、教育、福祉、医療など多方面からの支援が必要
- 連携は、単独機関では解決できない課題に対して協力して共通の目的に向けて取り組むプロセス
- “small start with BIG picture”  
まずは小さなことからはじめてみる



ご清聴ありがとうございました

上野 恵子

[ueno.keiko.6s@kyoto-u.ac.jp](mailto:ueno.keiko.6s@kyoto-u.ac.jp)



<https://keiko-ueno.com/>



<https://researchmap.jp/keikookumuraeno>